

- minor*. II. Enzymes of nitrate assimilation and some aspects of their regulation. *Plant Physiol.* 44: 849-853.
- JOY, K.W. 1971. Glutamate dehydrogenase changes in *Lemna* not due to enzyme induction. *Plant Physiol.* 47: 455-446.
- KRETOVICH, W.L., EVSTIGNEVA, Z.G. and TOMOVA, N.G. 1970. Effect of nitrogen source on glutamate dehydrogenase and alanine dehydrogenase of *Chlorella*. *Can. J. Bot.* 48: 1179-1183.
- LEA, P.J. and THURMAN, D.A. 1972. Intracellular localization and properties of plant L-glutamate dehydrogenases. *J. exp. Biol.* 23: 440-449.
- LEA, P.J. and MIFLIN, B.J. 1974. Alternative route for nitrogen assimilation in higher plants. *Nature*, 251: 614-616.
- LOWRY, O.H., ROSEBROUGH, N.J., FARR, A.L. and RANDALL, R.J. 1951. Protein measurement with Folin phenol reagent. *J. Biol. Chem.* 193: 265-273.
- MIFLIN, B.J. 1974. The localization of nitrite reductase and other enzymes related to amino acid biosynthesis in the plastids of root and leaves. *Plant Physiol.* 54: 550-555.
- O'NEAL, D. and JOY, K.W. 1973. Localization of glutamine synthetase in Chloroplasts. *Nature New Biology*, 246: 61-62.
- PABLICH, E. and JOY, K.W. 1971. Glutamate dehydrogenase from pea roots: Purification and properties of the enzyme. *Can. J. Biochem.* 49: 127-138.
- SATO, M., SATO, Y. and TSUCHIYA, Y. 1975. Occurrence of glutamate dehydrogenase in purple leaver, *Porphyra yezoensis*. *Bull. Jap. Soc. Sci. Fish.* 41: 337-341. (in Japanese)
- SMITH, D.C., BASSHAM, J.A. and KIRK, H. 1961. Dynamics of the photosynthesis of carbon compounds. II. Amino acid synthesis. *Biochim. biophys. Acta*, 48: 299-313.
- WALLANCE, W. 1973. The distribution and characteristics of nitrate reductase and glutamate dehydrogenase in the maize seedling. *Plant Physiol.* 52: 191-196.
- YAMADA, T., IKAWA, T. and NISIZAWA, K. 1978. Partial purification and some properties of RuDP carboxylase from a green alga, *Bryopsis maxima*. *Jap. J. Phycol.* 26: 49-52.

西澤一俊・安齋 寛・奥川雄治： オオハネモ (*Bryopsis maxima*) のグルタミン酸脱水素酵素の研究

最近までは植物におけるアンモニア同化の主役をなすと考えられていたグルタミン酸脱水素酵素 (GDH) に関する研究は、高等植物や微細藻では詳しく行われているが、多細胞または多核藻における知見は少い。そこで私共が従来 N-代謝や C-固定の研究に使っているオオハネモにおける GDH につき、若干の酵素化学的研究を行った。すなわちその抽出液の硫酸分画標品を用い、至適酸度や熱安定性、補酵素特異性、二・三の金属の影響、Michaelis 定数などを観察測定し、既に報告されている結果と比較した。(154 東京都世田谷区下馬 3-34-1, 日本大学農獣医学部水産学科)

◎書籍頒布について 会員および、その他ご希望の方に頒布致しますので代金を添えて学会事務局までお申し込み下さい。

- (1) 山田幸男先生追悼号 本学会では昨年 8 月に故山田幸男先生の追悼号を刊行致しました。この事業は、追悼号刊行実行委員会の手で進められ、その経費はすべて各界各位の寄附金によって充当されました。A5 版 i~xxviii, 1~418 頁, 山田先生の遺影・経歴・業績一覧・追悼文および内外の藻類学者より寄稿された論文 50 編 (英文 26, 和文 24) が掲載されています。価格, 国内 5500 円, 国外 6000 円 (含送料)。
- (2) 北海道周辺のコンブ類と最近の増・養殖学的研究 昭和 49 年 9 月 3 日札幌で行われた日本植物学会の折, 日本藻類学会主催で「コンブに関する講演会」が開かれましたが、そのときの記録が刊行されたものです。B5 版, 65 頁, 発表論文 4 件の研究報告と討論の要旨が掲載されています。価格, 700 円 (含送料)
- (3) *Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific* (I.A. Abbott & M. Kurogi ed.) 昭和 46 年 8 月に札幌で開かれた北大平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録です。B5 版, i~xiv, 1~280 頁, 16 図版, 20 編の研究報告を掲載。価格, 国内 3000 円, 国外 4000 円 (含送料)。

学 会 録 事

昭和53年9月28日～30日にわたって千葉大学教養部で開催された日本植物学会を機に、本学会の53年度総会・懇親会・評議員会・編集委員会合同会議が開かれた。

1. 評議員会・編集委員会合同会議

9月27日(17:00～21:00)。東京学芸大学20周年記念館。出席者：(会長)西澤一俊(評議員)有賀祐勝、加崎英男、横浜康継(編集委員)小林弘、秋山優(幹事)山岸高旺、古谷庫造、岡崎恵視、市村輝宣、大島海一の諸氏。

53年度総会に提出する報告事項、総会提出議案などについて審議がなされたが、その大部分は去る4月1日(於 東京学芸大学)の評議員会・編集委員会合同会議で審議了承されているので、今回は主として来年度の事業計画と予算案について審議がなされた。ただし、この2件についても、来年(54年度)からは、会長並びに役員が交替することになっているので、従来の経過からみて、まず予定しなければならない事業のみしぼり、それに伴う予算案を立て、それ以上のことは総会にはかり、さらに、新会長・新役員で検討してもらうことになった。審議内容の詳細は、次項の総会報告と重複する部分が多いので、そちらで報告したい。つづいて、53年度春季大会の会計報告がなされ、審議の結果承認された。

2. 昭和53年度総会

53年9月28日(17:00～19:00)植物学会大会A会場で開催。会長挨拶のあと、議長として加崎英男氏(都立大)が選出され議事に入った。

I. 報告事項

(1) 庶務関係①会員状況 普通会員454名、学生会員45名、外国会員57名、団体会員39件、賛助会員12件14口(53.9.14現在)②会員移動・新入会員名簿、先般出版の名簿(25:93-125)と同じ形式で、まとめて学会誌に掲載して行く。

(2) 評議会・編集委員会関係 ①評議員会・編集委員会(持廻り)を2月14日と3月5日に開き、学会誌の表紙・体裁などの件について審議決定した(詳細は会誌26:94に掲載報告済み)。②評議員会・編集委員会合同会議4月1日、春季大会当日、東京学芸大で開催

し、山田幸雄先生追悼号寄贈の件、日米科学セミナー記録寄贈の件、コンブに関する講演会の記録寄贈の件が審議承認された。ついで、52年度会計決算報告54・55年度役員選挙の件、53年度総会総会懇親会の件などが審議された(詳細は会誌26:93)。③評議員会(持廻り)7月20日に開催し、54・55年度学会会長候補推薦の件が審議され、黒木宗尚氏、千原光雄氏、正置富太郎氏の3氏が推薦された。これに基づいて役員選挙が実施された。

(3) 54・55年度会長および評議員選挙の件、8月20日投票用紙、選挙人名簿を発送し、9月16日、安藤一男氏、大房剛氏立会のもとに開票集計がなされた。その結果、次の方々が選出された。(敬称略)

会長 黒木宗尚

評議員(北海道地区)川嶋昭二・館脇正和

(東北地区)鬼頃 鈞

(関東地区)山岸高旺・小林弘・有賀祐勝
千原光雄

(中部地区)喜田和四郎・岩崎英雄

(近畿地区)広瀬弘幸・坪 由宏

(中国・四国地区)大森長雄・松井敏夫

(九州地区)右田清治

(4) 編集関係 ①会誌の表紙・体裁・投稿案内変更についての審議経過については、すでに26:94会誌報告されたように決定、26巻1号より実施されている。②会誌発行状況 26巻1・2号はすでに発行、3・4はそれぞれ進行中である。③投稿案内については、現行の編集方式にそぐわないところもあるので、早急に欄外見出し等については改訂を行ない、その他の点に関しては、引続き新会長・新役員の下で検討することになった。

II. 審議事項

(1) 52年度会計決算報告 52年度決算については、53年1月21日 会計監事・岩本康三氏と徳田 広氏の監査を受け、別表①の通り報告承認された。

(2) 53年度会計中間報告 53年1月1日から9月14日の分について中間報告がなされ、承認された。この中で山田幸男先生追悼号関係寄贈分をもとにして記念事業基金特別会計を本会計とは別に設けることも提案承認された(表③下欄参照)

表① 昭和52年度決算報告 日本藻類学会

収	入	支	出
会費	1,531,758	印刷費	1,733,740
国内(467)	1,493,550	24巻4号別刷	
国外(11)	38,208	25巻1～4号	
バックナンバー		発送費	73,600
売上金	489,150	通信費	87,420
別刷代	202,200	編集費	17,470
論文頁数超過負担金	10,000	庶務費	263,388
広告代	16,000	事務用品, 事務	
預金利子	23,456	整理補助, 事務引継	
(小計)	2,272,564	春季大会運営補助	40,000
前年度繰越金	1,267,263	幹事手当	70,000
		送換金手数料	2,750
		(小計)	2,288,368
		残額(次年度繰越)	1,251,459
合計	3,539,827	合計	3,539,827

昭和53年1月21日 日本藻類学会 会長 西澤一俊 ㊟
本決算書は適正なものとする

会計監事 岩本康三 ㊟

会計監事 徳田 広 ㊟

表② 昭和54年度予算 日本藻類学会

収	入	支	出
会費	1,750,000	印刷費	2,080,000
普通会员 454名,		27巻1～4号	
学生会員 45名,		発送費	120,000
外国会員 39名,		通信費	50,000
団体会員 39		編集費	50,000
賛助会員 14口		庶務費	220,000
バックナンバー		事務用品他	
売上代	300,000	事務補助	
別刷代	250,000	幹事手当	80,000
論文頁数超過負担金	50,000	送換金手数料	10,000
預金利子	20,000	春季大会運営補助	60,000
(小計)	2,370,000	事務所移転引継	100,000
前年度繰越金	790,000	(小計)	2,770,000
		予備費	390,000
合計	3,160,000	合計	3,160,000

表③ 山田幸男先生記念事業基金特別会計

(昭和54年度)

収	入	支	出
前年度繰越金	542,344		
送悼号売上金	50,000	合計年度繰越	592,344
合計	592,344	合計	592,344

(3) 54年度事業計画 評議員会・編集委員会合同会議の席でも出たことであるが、来年度から会長・役員が交替し、事務局も移転するので慣例的に実施されている第3回春季大会・学会誌27巻1～4号の発刊、それと学会事務所移転関連事項など、最小限の事業を計画し、次の54年度予算案を立案した。なお、第3回春季大会は54年4月1日東京で開催するが、会場については新会長・役員が検討し、会誌4号(12月発刊)に発表することになった。

(4) 54年度予算案 上記の事業計画案をもとに、別表②の予算案が提出審議された。なお、この原案については新会長・新役員との事前の話し合いがなされていなかったが、その場で新会長・黒木宗尚氏から、事業計画案並びに、そのための予算案については、従来の経緯から見て妥当であるとの発言があり、予算案については、原案通り万場一致で承認された。

(5) その他①学会会長の交替に伴い来年度早々に会計監査を受け、事務引継、事務局移転が行われる予定。②命名規約小委員会について。植物分類学会で標記委員会を開き、本学会から参加している小林 弘氏から委員会での審議事項並びに提案事項の詳細については会誌に発表していきたいと報告された。③関連学会の開催日時について。本学会の春季大会と、例えば植物分類学会大会などが重複したり、本学会総合と植物分類学会総会が重なったりすることがあるが、これについては、植物学会大会準備委員会に調整を依頼し、できるだけ避けるようにしたい。④学会会則と会の運営について。現在の学会会則にはいろいろの面で不備の点があり、例えば、会長や幹事の意向によってどうにでも運営できる可能性があるとの意見に対しては、運営上極めて困るような事態が起こらない限り、現在の規則で十分間に合うが、会員数の増加、会の発展に伴う運営の複雑化などに伴い、必要があれば所定の手続によって改訂されるべきであるとの答が会長並びに幹事からなされた。なお春季大会時に総会をやってはどうかとする発言があったが、この件に関しては、す

で第1回大会からの懸案事項であり、会員の集まり具合等を見ながら、しばらく様子を見ることになっている旨の説明がなされた。⑥文部省への補助金申請の件。52年度は申請しなかったが、53年度は、旧役員によって行うことになった。

3. 懇親会

総会に引き続いて懇親会が同じA会場で開かれた。会場は階段教室ということではあったが、古谷幹事の司会と会員諸氏のご協力によって、恒例の1分間スピーチも含め、終始なごやかで、しかも楽しい会を過ごすことができた。特別参加の A. Gibon (カリフォルニア大), サンドラ・S・フォトス (ハワイ大), Sandra Lindstrom (北大), 李 龍弼 (北大) の各氏も含め68名参加者があり、誠に盛会であった。なお、53年度の総会、懇親会の開催に当って、会場の設営・会の運営などについて、いろいろとご配慮をいただいた日本植物学大会準備委員会の吉田 治氏、および本学会員吉崎 誠氏に対し、心からお礼申し上げたい。

新 入 会

団体会員 東海大附属図書館清水分館 424 清水市折戸 1040 東海大清水校舎内 0543-34-0411

賛助会員 社団法人北海道水産資源技術開発協会 060 札幌市中央区北3条西7-1 水産会館内
 海藻資源開海株式会社 160 東京都新宿区新宿1-29-8 財団法人公衆衛生ビル内
 協和醸酵工業株式会社農水産開発室 100 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル
 全国海苔貝類漁業協同組合連合会 108 東京都港区高輪2-16-5
 K. K. 白寿保健科学研究所・原昭邦 173 東京都板橋区大山東町32-17
 浜野顕微鏡商店 113 東京都文京区本郷5-25-18
 株式会社ヤクルト本社研究所 189 東京都国立市谷保1796
 山本海苔研究所 143 東京都大田区大森東5-2-12
 弘学出版株式会社 森田悦郎 214 川崎市多摩区生田8580-61
 永田克己 410-21 田方都葦山町四日町227-1
 全漁連海苔海藻類養殖研究センター 440 豊橋市吉田町69-6
 神協産業株式会社 742-15 熊毛郡田布施町波野962-1

日本藻類学会第3回春季大会のお知らせ

日本藻類学会第3回春季大会を下記の要領で開催します。藻類に関係のあるあらゆる分野の研究についての発表を広く募集致します。なお、大会当日は日本水産学会春季大会の前日でもありますので、特に水産関係の方々の多数のご発表とご参加をお願い致します。所属機関長への出張要請等の文書などご入用の方はご遠慮なく大会事務局まで宛先を明記してお申込み下さい。

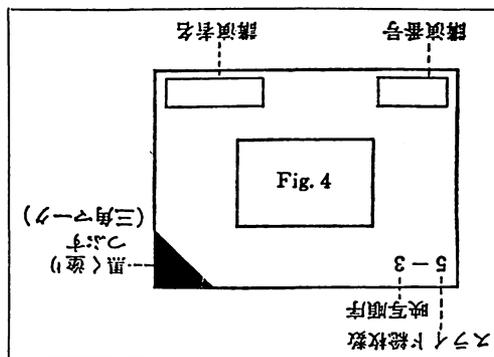
- (1) 期 日 昭和54年4月1日
- (2) 会 場 東京水産大学(国電品川駅東口より徒歩10分)
- (2) 研究発表 1演に演題につき討論を含め15分を予定しています。
- (4) 参加申込み 講演の有無にかかわらず、大会に参加を希望される方は、同封の振替用紙にてお申込み下さい。参加費は1,000円です。懇親会(当日夜開催)に出席希望の方はさらに会費2,000円を添えてお送り下さい。
- (5) 講演申込み 講演ご希望の方は、氏名(共同の場合は演者に◎印)、所属、題名、要旨(A4 400字詰原稿用紙使用、題名共600字以内)を添えて大会準備委員会までお申込み下さい。
- (6) 発表方法 図・表はすべて35cmスライドに限ります。スライド枠には、下図の

ように講演者氏名、講演者番号(後日お届けする大会プログラムに記されているもの)、スライド総枚数、映写順序、三角マークを記入して下さい。同一図、表をくり返し映写したい場合は、それに見合う枚数をダブルらせてご用意下さい。

(7) 切 昭和54年1月25日

(8) 申込先・要旨送り先

〒060 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学部植物学教室内 日本藻類学会春季大会準備委員会
振替 小樽 16126
Tel. 011-711-2111 (内線 2745)



日本藻類学会事務局移転のお知らせ

昭和53年度総会においてお知らせしましたように、会長の改選に伴い、本学会事務局は昭和54年1月1日より下記に変わります。学会に関する通信、原稿送付、送金等は下記宛に願います。なお、会費納入の際、学生会員は振替用紙の通信欄に指導教官の署名捺印による身分証明を行って下さい。

〒060 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学理学部植物学教室内
日本藻類学会
振替 小樽 16142
Tel. 011-711-2111 (内線 2745)